

「英語の外部検定、 受検したことある？」

入試利用の予定者約9割が英検！

旺文社教育情報センター 30年3月26日

旺文社の大学受験ポータルサイト「大学受験 パスナビ」では、本年度第5回パスナビ投票「英語の外部検定、受検したことある？」を実施した。

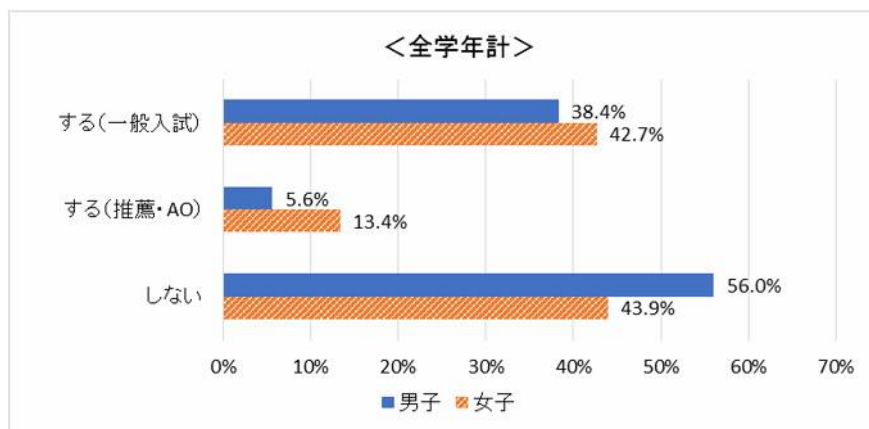
実施期間：平成30年1月16日（火）～2月28日（水）

回答総数：1,441（男女比…男子：517《35.9%》/女子：924《64.1%》）

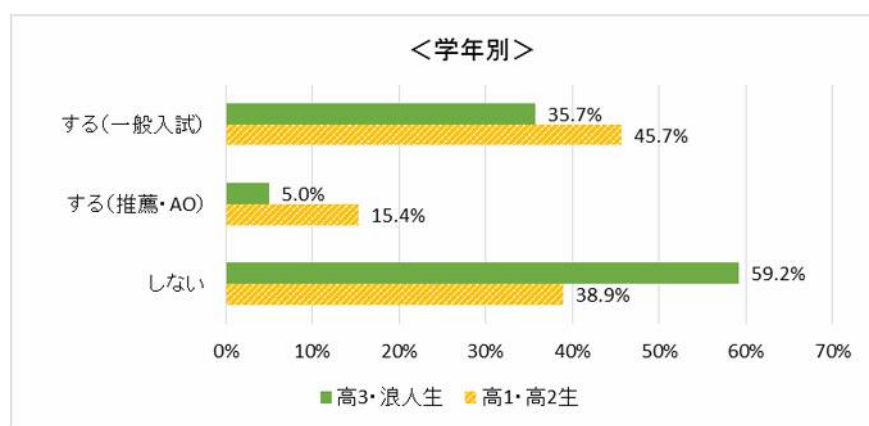
学年別回答率：

高校1年生：18.5% 高校2年生：36.4% 高校3年生：36.4% 浪人生：8.7%

1:【入試に英語の外部検定を利用しますか】 回答数：1,377



※予定を含む（以下同様）。



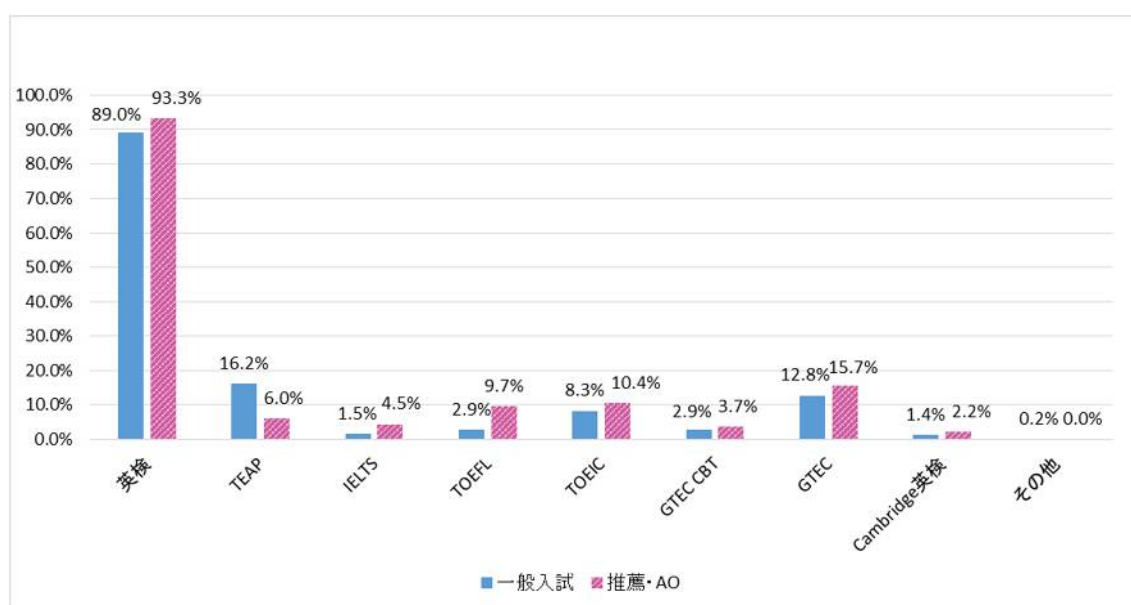
※回答数…高3・浪人生：635、高1・2生：742。

本調査は、そのテーマ（「英語の外部検定、受検したことある？」）からして、もともと外部検定に関心のある高校生の回答が多いと思われる。そのため、入試利用を「する」と回答した割合は、少し高めに出ているかもしれない。

そのため、ここでは具体的な数値よりも、全体的な傾向を見るに留めておこう。しかしそれでも興味深い結果が出ていて、入試利用は推薦・AOよりも一般入試の方が、高3・浪人生よりも高1・2生の方が高い割合となった。

一般入試での外部検定利用は、各大学での導入がスタートしてから、今年行われた30年入試で4回目。その認知度が学年を追うごとに急速に高まっていることがわかる。

2:【入試で利用しようとしている検定はどれですか】 回答者数：651



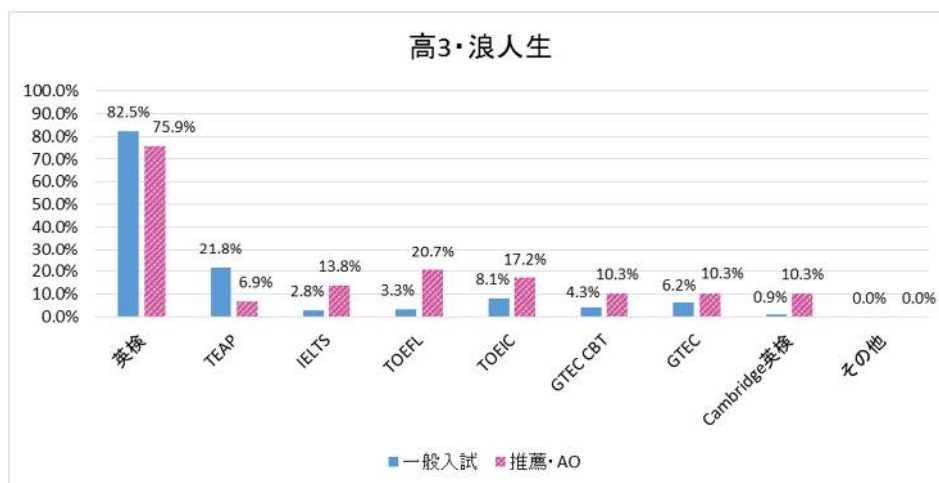
※複数回答。※高3・浪人生には29年度に受検した検定を質問（ともに、以下同）。

本調査でポイントとなるのがここだ。入試利用を「する」と選んだ人に、実際に、どの英語外部検定を利用予定なのかを聞いてみた。すると、圧倒的多数が「英検」と回答した。一般入試では約89%、推薦・AOでは約93%を英検が占め、注目すべき一般入試では英検と実施団体を同じくする「TEAP」が後に続く形となっている。

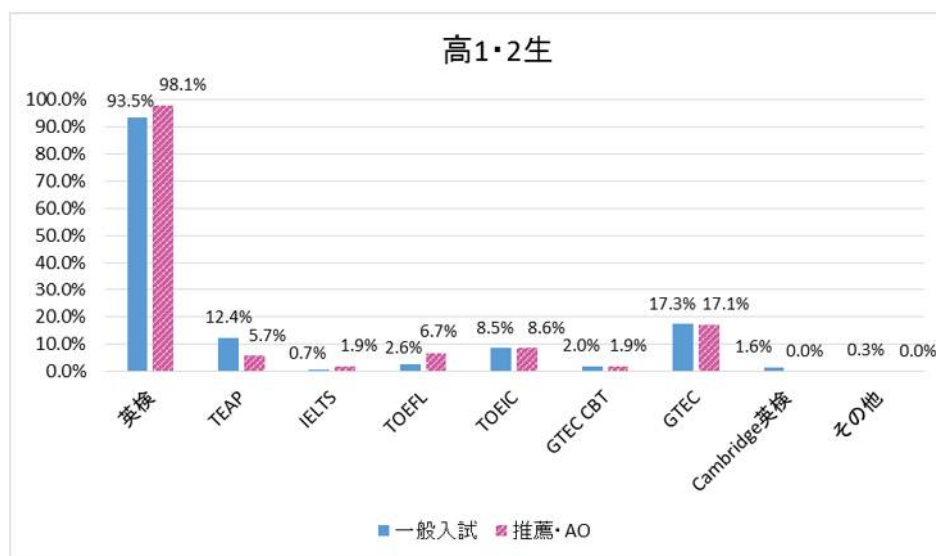
ちなみに、今回は入試利用予定の検定すべてを回答してもらっている。利用予定の検定数の平均は1.4だった。複数の検定を利用予定の人のなかで、英検を利用予定の人の割合は97.2%。つまり、2つ以上の検定を受検する人のほとんどが、英検は受検するということがわかる。

ここでも、高3・浪人生と高1・2生に分けて見てみよう。下に、前ページのグラフを高3・浪人生、高1・2生に分けたものを掲載した。

これを見てみると、高3・浪人生、高1・2生いずれも、「英検」がもっとも多く回答を集めていることに変わりはないが、高1・2生では全体的に他の検定が割合を減らし、「英検」の割合が高まっている。

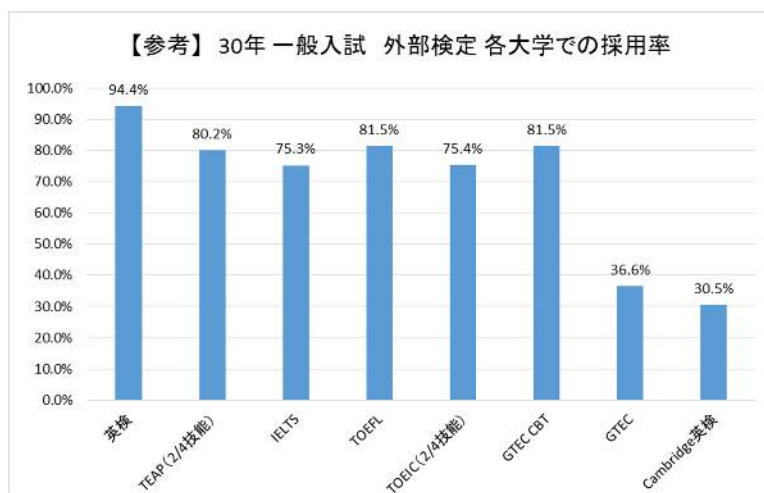


※回答者数・・・240 (複数回答)。



※回答数・・・411 (複数回答)。

なぜ下の学年で英検の寡占化が進んだのか。ここで、30年一般入試の、外部検定の各大学における採用率のグラフを見てみよう (次ページ)。これは、今年行われた30年の一般入試で外部検定利用を行った大学が、どの検定を利用可としているか、検定ごとの採用率を示したものだ。



※各大学の外部検定を利用しているすべての入試方式（一般入試）のうち、それぞれの検定が採用されている割合。
 ※原則、学科単位で集計。1学科で複数の入試方式がある場合、外部検定の利用方法が同じなら「1」、異なれば別々に計上。
 ※各外部検定の採用については、募集要項等に掲載されているものすべてを計上。「それに準ずる検定でも出願可」などの記載の場合は、上記すべての検定が採用されているとして集計。

これを見ると、英検はほとんどの大学で利用できることがわかる。特にまだ志望校が決まっていない高1・2生なら、汎用性の高い英検に流れるのも当然だろう。

今回の調査からも明らかなのは、高校生は結局、「国産」の検定に多く流れるという点だ。さらに当然、大学入試での採用率が高い検定に集中する。この両方を満たすのが英検とTEAPだ。TEAPも本調査では、一般入試で英検に次ぐ回答数を得ている（全学年合計のグラフ参照）。それでも英検という回答が圧倒的に多かったのは、もう1要素、検定料が安い点大きい。

33年1月からはじまる大学入学共通テストにおいて、国立大学では一般入試の受験者全員に外部検定を課するという方針が発表されている。今後、受験者はさらに増えていくことが予想され、その動向に注目が集まっている。